



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和2年度 第12号
令和3年 2月1日

自分にできることに取り組む

校長 水野裕司

朝の情報番組で、ある母娘の話が紹介されていました。

夫のご両親と同居しながら、自分の母親の面倒も見たいと、娘さんが家から徒歩10分の所にある老人ホームを選び呼び寄せたそうです。ところが、感染症予防のため、老人ホームに入居している母親に直接会えなくなっていました。自分の思いや努力がコロナウィルスのせいで潰されてしまったと、やる気を失っても仕方ないような話です。

しかし、この方は、今自分にできることをしようと、手紙を書くことを始めました。毎日便せんに1枚、日頃の出来事や感じたこと、母親への思いなどを書き、新聞と一緒に施設まで届けているそうです。母親は、「毎日手紙を届けてくれるので、会えなくても心はつながっています。感謝の念でいっぱいです。毎日会っていた時より絆が深まったように感じます。」と話していました。

毎日手紙を書くことを通して母娘の絆を深めるといふ、2人にとっての新しい価値を創り出していて、とても素敵だなと思いました。コロナ禍で自分の思い通りにならないことの多い日々の中で、参考になることが多いと思い紹介しました。

さて、学校では、1月後半からペースランニングに取り組みました。児童の密を避けるため、奇数学年と偶数学年で1日おきに走りました。回を重ねる度に速くなる子供たちと日ごとに疲れが蓄積する自分を比べながら、なんとかめげずに走り切りました。先日の放送朝会では、ビタミンDが免疫力を高め感染症予防には有効であること、ビタミンDは、日光を浴びることで体の中で作られることを話しました。また、陸上部出身の教員からは、ランニングの呼吸は、なぜ「吸う・吸う、吐く・吐く」と2回ずつするのがよいのか説明してもらいました。また、多目的ホールと教室をつなぎ、オンラインで〇×クイズ集会も実施できました。6年生を送る会も、オンラインで行う計画を立てています。

一方、感染症への対応は続きます。3密回避、換気、手洗い・消毒、マスク着用などウィルスを拡散させない、体内に入れない対策に加え、児童の体力や免疫力を高める取り組みも行いながら、児童の健康と安全を守っていきたくと考えています。制限の多い中ではありますが、できることを着実に積み上げながら、教育活動を進めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。